

# 「強くしなやかな組織」 を目指して



新潟市消防局長 小林 徹

新潟市には都市と田園の調和による暮らしやすさをはじめ、空港・港・新幹線・高速道路を有する優れた拠点性のほか、豊かな食と農など8つの区が生み出す特色あふれるたくさんの魅力があります。

5月には世界的にも注目度の高い「G7財務大臣・中央銀行総裁会議」が各国の要人をお迎えし開催されました。期間中に火災等の発生はありませんでしたが、有事に備え消防局内に警備本部、会場には現地警備本部を設置し、約100名の体制で消防警備にあたりました。

また、近年のトピックとしては、約60年ぶりにリニューアル工事中の新潟駅とその周辺を「にいがた2km（ニキロ）」と名付け、高次都市機能の集積や魅力の創出、賑わいづくりを目的に民間事業者による再開発の動きが活発化しています。

更に、今季6年振りにサッカーJ1の舞台に復帰したアルビレックス新潟や、世界遺産への推薦が決定した「佐渡島の金山」の玄関口として、これまで以上に交流人口の拡大が期待されます。

この様に、大型開発や歴史的なイベント、交流人口の増加等により、これから街が大きく変化しようとしている今、これに伴う新たな消防需要、救急需要に合わせた対策が急がれます。そうした中、本市が目指す都市の姿やその実現に向けた政策、施策の方向性を定めるため作成した「新潟市総合計画2030」では、火災による被害の低減や消防体制の強化等を中心とした「消防体制の充実」、救急業務の高度化や救急需要対策の推進等を中心とした「救急体制の充実」の各種施策を盛り込み、これらの基本方針のもと今後予想される消防課題に対し様々な取組を展開していきます。

この他に、多発する大規模災害への対応については、昨年度に広域応援を担当する部長級ポストを新設して、緊急消防援助隊応援計画を見直し、今年度は訓練を通じて実行性の検証を行います。更に、地域防災の中核である消防団員の充足についても、全国的に団員の減少が続くなか、若年層を対象に入団促進を図っており、装備や資機材の充実のほか、アルビレックス新潟の選手を起用したポスターを作成するなど積極的な入団促進を行っています。

最後に、これまで猛威を振るってきた新型コロナウイルス感染症により大きく変化した世の中は、社会経済活動の再開等によって、これまでとは違う形で急激に変化しようとしています。そこに人口減少やこれに伴う地域活力の低下などの社会情勢も加わり、これまでの我々消防の組織のあり方では、あらゆる分野で対応困難な状況が予想されます。

こうした難しい時代だからこそ、我々もその時代に合わせて臨機応変に対応していかなければなりません。今日まで多くの先輩方が積み重ね、築き上げてきた経験や知識を大切にしながら、そこに新たな風を入れ、これまでの「強い」消防らしさに加えて、時代に合わせた「しなやかさ」も合わせ持つ、そんな頼もしい組織を目指してまいります。